

2025 年第 9 週の報告です。

感染性胃腸炎は今週もわずかに増加、京都市南区の警報レベルも継続中です。山城北の**咽頭結膜熱**・京都市右京区の**A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎**・京都市南区の**伝染性紅斑**も引き続き警報レベルです。その他、眼科定点は**流行性角結膜炎**が 4 件、基幹定点は**マイコプラズマ肺炎**が 2 件・**クラミジア肺炎**が 2 件報告されています

全数報告対象疾患は、**結核**が 4 件、**レジオネラ症**・**カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症**・**後天性免疫不全症候群（HIV 感染症を含む）**と**梅毒**がそれぞれ 1 件、**侵襲性肺炎球菌感染症**が 2 件、**百日咳**が 9 件報告されました。

百日咳の報告が急増しています。府内の報告は昨年 1 年間で 65 件でしたが、今年は年始から今週までで既に 56 件に上っています。地域別にみると山城北で 22 件、京都市で 20 件と偏りが見られ、局地的な流行も懸念されます。患者は 10 代前半が最も多く、次いで 0 歳児も多く報告されています。40～50 代の患者も一定数報告されています。0 歳児、特に生後 6 カ月未満の乳児は罹患すると肺炎や脳症を合併して重症化するリスクが高く、まれに致死的になります。ワクチンは定期接種で、生後 2 か月から初回の接種が始まります。2024 年度以降、5 種混合ワクチン（ポリオ・百日咳・破傷風・ヒトインフルエンザ菌感染症・ジフテリア）が主に用いられています。本症は激しい咳を特徴としますが、ワクチンを接種している場合、典型的な症状が現れないこともあります。特に乳児に接する機会の多い方や出産予定の方は、咳が長引く際は、早めに医療機関を受診するようお願いいたします。

※5 種混合ワクチンについての詳しい説明はこちらのホームページをご確認ください。

[5 種混合ワクチン | 厚生労働省](#)